

眼科

一般目標（G I O）

眼疾患に対する基本的知識を習得し、問診、初期検査を行い、専門医に移管するまでの診療を行う。
また、全身疾患に合併する眼症状や眼疾患の実際を診察、観察し、理解を深める。
様々な視覚障害の現状を理解し、日常診療における配慮態度を習得する。

行動目標（S B O）

1. 問診により眼症状を把握する。
2. ペンライトを用い、前眼部及び眼球運動の異常を指摘し、結果を解釈できる。
3. 眼瞼を翻転して眼瞼結膜を観察し、異物の除去ができる。
4. 洗顔処置の必要を判断し、実施できる。
5. 眼瞼の構造を理解し、眼瞼裂傷の適切な処置ができる。
6. 涙道の構造を知り、外傷時の処置を理解する。
7. 簡単な視力検査、屈折異常の矯正ができる。
8. 非接触眼圧計による眼圧測定ができる。
9. 細隙灯顕微鏡を扱い、前眼部、中間透光体の観察ができる。
10. 眼底倒像鏡を用いて、散瞳下に眼底の観察ができる。
11. 眼底カメラを操作し、眼底写真の撮影を行う。
12. 蛍光眼底造影の結果を理解できる。
13. 細隙灯顕微鏡下に、角膜異物の深さと除去の可否を判断できる。
14. 細隙灯顕微鏡下に、角膜異物を除去できる。
15. 眼科領域のX - P、CTスキャンを必要に応じ指示できる。
16. 穿孔性眼外傷、急性緑内障等、緊急性を要する眼疾患を理解し、速やかに専門医に
17. 移管できる。
18. 基本的な点眼剤、内服薬を処方できる。
19. 手術助手として顕微鏡下手術の介助を体験する。
20. 視力障害・視野狭窄、結膜の充血について、レポートを作成し、提出すること。
21. 経験すべき手技
 - ① 眼圧測定
 - ② 角膜異物除去
 - ③ 眼底検査

方略（L S）

1. オリエンテーション
ローテート開始時には、指導医と面談し、プログラム説明、所属スタッフへの自己紹介等を行なう。
ローテート中随時、評価表を記載し、フィードバックを受ける。
2. 外来診察・検査
 - ① 指導医・上級医が診察した患者に対して斜視・弱視検査、眼球運動検査について簡単な診察を行う。
 - ② 指導医・上級医が診察した患者に対して細隙灯顕微鏡にて、基本的な前眼部の観察を行う。

- ③ 指導医・上級医が診察した患者に対して倒像鏡にて、散瞳状態で眼底後極部の観察を行う。
3. 病棟研修
 - ① 指導医・上級医とともに病棟回診を行い、カルテを記載する。
 - ② 指導医・上級医とともに患者を受け持ち、診療を行い、サマリーを記載する。
 4. 救急研修
指導医・上級医とともに患者を診察し、検査計画の立案、治療計画の立案に参加する。
 5. カンファレンス等、科の行事への参加
毎週火曜日16時～ 科内カンファレンス
 6. 自習
場面に応じて研修に役立つ書籍・論文を読むよう指示する。(眼科診療プラクティス等)

評価（E V）

1. 評価は、観察記録とし、研修医および指導医が1か月毎に行う。
2. プロフェッショナリズム、資質・能力についてはプログラム全体の評価の該当する項目で評価する。
3. 眼科独自の目標に関しては専用の用紙を用いて評価を行う。

研修スケジュール

眼科の週間予定表

	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
月	← 病棟回診、外来診療 →				←	手術		→		
火	← 病棟回診、外来診療 →					←	検査	→		
水	← 病棟回診、外来診療 →				←	手術		→	カンファレンス	
木	← 病棟回診、外来診療 →					←	検査	→		
金	← 病棟回診、外来診療 →									